

HP Operations Orchestration 10.x

Windows および Linux オペレーティングシステム

OO Base コンテンツパックバージョン1.6.2

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2015年9月
ソフトウェアリリース日: 2015年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの [\[New users - please register\]](#) リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com/>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは

<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

概要	5
新機能	5
機能拡張	5
コンテンツパックの統合	7
Base コンテンツパックのデプロイ	9
修正された不具合	10
既知の問題	13
制限	16

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Base コンテンツパック 1.6.2 リリースの概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

このリリースでは、次の言語がサポートされます。

- en - 英語
- fr - フランス語
- de - ドイツ語
- ja - 日本語
- es - スペイン語
- zh_CN - 簡体字中国語

Base Content Pack 1.6.2 は累積的なコンテンツパックです。

新機能

- 「/Base [1.6.0]/Library/Operations/HTTP Client/v2.0/Http Parse Header」の下に、新しいスタンドアロンベースユーティリティオペレーション「**Parse HTTP Header**」が追加されました。このオペレーションを使用して、ヘッダーに関する HTTP 標準に従ってフォーマットされた HTTP ヘッダーを解析し、フロー内のステップとして HTTP Client v2 オペレーションの responseHeaders 出力を解析できます。このオペレーションは、ユーザーが HTTP ヘッダーを解析し、ヘッダー名またはヘッダー要素名を使用してヘッダーエントリまたは要素を抽出する際に役に立ちます。
- 「/Base [1.6.0]/Library/Utility Operations/Flow Variable Manipulation」の下に、新しいオペレーション「**Set Global Flow Variable**」が追加されました。このオペレーションを使用すると、グローバルフロー変数を設定できます。
- 「/Base [1.6.0]/Library/Utility Operations/Flow Variable Manipulation」の下に、新しいフロー「**Set Sensitive Flow Variables**」が追加されました。このフローを使用すると、暗号化された変数または機密変数のリストを設定できます。10.50 より前のリリースでは、このフローを暗号化されたデータで使用し、00 10.50 では、機密データで使用できます。

機能拡張

- 「/Library/Operations/Operating Systems/Cross Platform/Operating System Detector」の下に、次の新しい入力が増加されました。

- **nmapArguments**
SSH 接続が失敗した場合に OS の検出に使用される nmap コマンドの引数を、ユーザーがカスタマイズできるようにします。
- **portDetectionRules**
nmap コマンドが使用中の OS を検出できない場合に、ユーザーが自分自身のヒューリスティックルールを定義して検出できるようにします。これらのルールは JSON 形式で、ターゲットシステムのオープンポートとクローズポートの組み合わせに基づいています。単純なデフォルトのルールも使用可能です。
- **timeout**
- 「/Library/Operations/Email/Get Mail Message」の下に、新しい入力 `verifyCertificate` が追加されました。このオペレーションは、証明書の有効期限が切れたかどうか、もしくはまだアクティブではないかどうかを確認します。デフォルト値は "true" です。
- 「/Library/Operations/Email/Send Mail」の下に、新しい入力 `encryptionAlgorithm` が追加されました。このオペレーションは、電子メールの暗号化に使用する暗号化アルゴリズムをユーザーが指定できるようにします。キーは提供された `keystore` 入力から選択されます。デフォルト値は "AES256_CBC" です。
- 「Send Mail」と「Get Mail Message」の説明に、安全な暗号化キーサイズに関する推奨事項が追加されました。

コンテンツパックの統合

次の表に、Base コンテンツパックがサポートする統合の一覧を示します。

統合名	バージョン
Active Directory	Windows 2000、Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2012 R2
AIX	AIX 5.3
FreeBSD	6.3、7.0
JDBC	
電子メール	POP3、IMAP
Excel	1997、2000、2003、2007、2010
ファイルシステム	
HP HP/UX	B.11.31
JVM	5.0、6.0
MS Cluster	Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2
ネットワーク	
Red Hat	ES 3、AS 3、ES 4、AS 4、ES 5、ES 6.2
Perl	
PowerShell	1.0、2.0、3.0、4.0
印刷	
リモートコマンド実行	
Sharepoint	2003、2007
SNMP	1、2、3
Solaris	10
SUSE Linux	openSUSE 10.0、SUSE Enterprise Server 10 SP1、openSUSE 11.0

統合名	バージョン
Windows	2003、XP、2008、2008 R2、2012、2012 R2
WMI	1.x
WS-Management	1.0.0

注: 次の統合には基本的なオペレーションだけが含まれます。高度な機能については、対応する専用コンテンツパックを参照してください。

統合名	専用コンテンツパック
JDBC	Databases
FreeBSD、HP-UX、Red Hat、Linux、Solaris、SUSE Linux、Windows	Operating Systems、Infrastructure Orchestration
電子メール	Business Applications

Base コンテンツパックのデプロイ

00 プラットフォームバージョン 10.00 以降が、Base コンテンツパック 1.6.2 をサポートしています。ただし、Base コンテンツパック 1.6.2 は、既存の 00 プラットフォームバージョン 10.50 またはそれ以降にデプロイすることを推奨します。

コンテンツパックのデプロイの詳細については、『Studio オーサリングガイド』の「コンテンツパックのプロジェクトへのインポート」と『Central ユーザーガイド』の「コンテンツパックのデプロイ」を参照してください。

注: コンテンツパックのアンインストール/ロールバックの方法については、『HP 00 Central ユーザーガイド』の「前回のデプロイメントへのロールバック」を参照してください。

修正された不具合

修正された不具合の参照番号は、ALM グローバル ID 番号 (QCCR) です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24600	「Remote Linux Script File Runner」オペレーションに構成可能なタイムアウトが存在しない	「/Library/Operations/Operating System/」の下のオペレーション「 Remote Linux Script File Runner 」で、以下の入力を使用してスクリプトを実行した場合の動作が改善されました。 <ul style="list-style-type: none">targetHosttargetHostUserNametargetHostPasswordscriptFile オペレーションはタイムアウトせず、正常に終了するようになりました。
QCCR8C27868	ICMP 要求がタイムアウトする場合でも、Base CP で「Local Ping」が正常に終了する	「Request timed out」が返され、リターンコードが "1" である場合、「 Local Ping 」オペレーションに対するレスポンスは失敗します。
QCCR8C28773	「Date Parser」オペレーションが Base CP 1.5.3 で異なる動作をする	「 Date Parser 」オペレーションで、「Library/Utility Operations/Date and Time/Date Parser」の下の dateFormat 入力を削除しても、エラーにならなくなりました。
QCCR8C27417	入力が暗号化されていると、「Set Flow Variables」が正しく動作しない	「/Library/Utility Operations/Flow Variable Manipulation」の下に、新しいフロー「 Set Sensitive Flow Variables 」が追加されました。操作対象のデータが暗号化されているか機密である場合、このフローで「 Set Flow Variables 」オペレーションを置き換える必要があります。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C28028	「Check Null」オペレーションは、値に空白しか含まれていない場合、isNull を返す必要がある	<p>空白を削除する必要があるかどうかをユーザーが判断できるように、次の trimSpaces 入力が増加されました。それに応じて、フロースクリプトレットが修正されています。</p> <p>新しい trimSpaces 入力の動作:</p> <ul style="list-style-type: none"> • "true" に設定され、"keyName" の値に空白しか含まれていない場合、レスポンスは "isNull" になります。 • "false" に設定され、"keyName" の値に空白しか含まれていない場合、レスポンスは "notNull" になります。 • それ以外の値に設定された場合、デフォルト値 (false) が使用されません。
	Date Parser が大きなミリ秒値を正しく変換しない	「/Library/Utility Operations/Date and Time/」の下で「Date Parser」オペレーションは、2 ³² 以上の入力値を正しく変換するようになりました。出力日付の範囲に関する制限はなくなりました。
QCCR8C26947	WMI プロトコルの使用時に「Remote Command」オペレーションが余分な改行文字を返す	「/Library/Operations/Remote Command Execution」の下で「Remote Command」オペレーションは、\r\n ではなく、余分な改行文字 (\n) を含む結果を返していました。この動作は、プロトコルが WMI に設定されていた場合にのみ発生していました。オペレーションは、WMI プロトコルの使用時にも \r\n を返すようになりました。
	SQL Server のバイナリデータが 00 でバイナリとして返される	SQL Server データベースでタイプが binary(16) の列のクエリを 00 から実行した場合、結果がデータベースの内容と一致するようになりました。

リリースノート
修正された不具合

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C28245	「WSH Script」オペレーションが動作しない	「Run WSH Script」オペレーションがWSH スクリプトを正常に実行します。

既知の問題

既知の問題の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

「Powershell script」オペレーションは、Powershell engine 3.0 ではなく 2.0 を使用する

「PowerShell script」オペレーションは、バージョン 3.0 がインストールされている場合でも、Powershell engine 2.0 を使用します。

この動作を修正するには、コマンドウィンドウで、
c:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v2.0.50727 に移動し、次のコマンドを実行します。

```
regasm /unregister "<ICONCLUDE_  
HOME>\RAS\Java\Default\webapp\dotnet\RCAgentLib.dll"
```

```
regasm /verbose /nologo /codebase "<ICONCLUDE_  
HOME>\RAS\Java\Default\webapp\dotnet\RCAgentLib.dll"
```

「SSH」knownHostPolicy が "add" の場合、既存のホストキーが異なると失敗する

「SSH Command v2」は、キーが異なると失敗します。特に、入力 knownHostPolicy = "add" で、キー (拇印) がすでに known_hosts ファイル内にあり、それが現在のホストのキーと異なる場合、「SSH Command」オペレーションは失敗します。

/Operating Systems [1.2.0-SNAPSHOT]/Library/Accelerator Packs/Operating Systems/SUSE Linux/Information Gathering/Memory Metrics

「/Operating Systems [1.2.0-SNAPSHOT]/Library/Accelerator Packs/Operating Systems/SUSE Linux/Information Gathering/」の下の「Memory Metrics」フローが、「Remote Command (Base)」サブステップで、**top -b -n1** コマンドの実行中に失敗します。

Netcool DB に対して SQL クエリを使用する場合、データベースの指定が強制されるべきではない

「/Library/Operations/Databases/JDBC/SQL Query」の下の「SQL Query」オペレーションを使用するには、データベース名の入力が必要です。値を指定すると、オペレーションは正常に完了しますが、Netcool ログにエラーが書き込まれます。

Netcool データベースに対する SQL オペレーションでセミコロンが使用できない

「/Operations/Databases/Microsoft SQL」の下の「SQL query」オペレーションは、いずれかのフィールドのデータにセミコロンが含まれていない限り、Netcool データベースに対して正しく動作します。オペレーションの区切り文字がパイプ文字にカスタマイズされた場合、結果は NULL のままです。同じオペレーションが、セミコロンを含まないデータを返す場合は正しく動作します。

サンプルフロー「Move Emails」がオブジェクトを正しくないメールボックスに配置する

「Operations/Exchange/Exchange 2010/Samples/Emails」の下の OOTB フロー「Move Emails」は、選択したアカウントがメールボックス所有者に属していない場合、選択したメールボックスのオブジェクトを移動できません。

「Operating System Detector」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される

「Operating System Detector」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されます。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「String Comparator」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/Get Cell」オペレーションを OLE オブジェクトを含む Excel ファイルに対して使用すると、失敗に終わる

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/」の下の「Get Cell」オペレーションを使用して Excel シートを読み取るフローを実行する場合、Excel ファイルに OLE オブジェクト (チェックボックスなど) が含まれていると、オペレーションは失敗し、エラーメッセージが表示されます。

SFTP オペレーションが非パスワード認証に対して動作しない

SFTP オペレーションは非パスワード認証に対して動作しません。

パスフレーズレスキーを使用してリモートホストに認証しようとする、パスワード入力が空であるという理由で失敗します。

「Offset Time by」オペレーションが解析不能の日付のために失敗する

オペレーション「/Library/Utility Operations/Date and Time/Offset Time by」が解析不能の日付のためにエラーを発生します。

次の入力を空白に設定すると、オペレーションは正しく動作します。

localeLang =

localeCountry =

RAS が日本語版の Windows 2008、VISTA、または Windows 7 上で設定されている場合、Local Ping は正しく動作しない

日本語 Window 2008、VISTA、または Windows 7 オペレーティングシステムで RAS が定義されている場合、ローカル ping オペレーションは正しく動作しません。

回避策:

この問題は、コードを次のように編集することで修正できます。

「Local Ping」オペレーションによって作成される一時 bat ファイルの先頭に、chcp 437 を追加します。

chcp.com 437 によってコードページが OEM United States に設定されるため、ping コマンドの出力がローカライズされなくなります。

IPv6 の制限

[IPv6][WMI] - 「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを IPv6 アドレスを使用して実行できない

「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを実行すると、IPv6 アドレスを使用している場合に失敗します。これはサードパーティの問題 (j-Interop) によるものです。

同じオペレーションを IPv4 アドレスで実行すると成功します。

次の Base コンテンツパックフローは「**Operations/WMI/Java**」に依存するため、IPv6 では動作しません。

- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Processes By Name**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Process PID**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Windows Processes**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Process Counters**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Task List**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Samples/」の下の「**WMI Query**」

「/Operations/Remote File Transfer/WebDAV」の下の「**WebDAV**」オペレーションは、サードパーティの問題 (Jakarta Slide、Commons HttpClient) により IPv6 では動作しません。

「/Operations/Powershell/Network」の「**Configure Network Adapter**」オペレーションは、Windows Server 2012/Windows 8 より前の Windows バージョンでは IPv6 インタフェースを設定できません。

HP-UX オペレーションは、IPv6 で構成されているターゲットサーバーに対しては動作しません。

AIX オペレーションは、IPv6 で構成されているターゲットサーバーに対しては動作しません。

「**Remote Command**」の ROSH (Remote Opsware Shell) および GlobalShell (Opsware Global Shell) プロトコルは、IPv6 で構成されているターゲットサーバーに対しては動作しません。これらのプロトコルは HP Server Automation の製品と統合されており、これらの製品はまだ IPv6 で検証されていません。

「/Operations/Remote Command Execution/Remote Command」の **rexec** プロトコルは、rexec サーバー (rexecd デモン) が IPv6 接続をサポートしないため、IPv6 をサポートしません。

非推奨のオペレーションは、IPv6 で構成されているターゲットサーバーに対しては動作しません。

制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24078	「Create Local Group」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない。	「Library/Operations/PowerShell/Utility」の下の「 Create Local Group 」フローが、英数字以外の文字が使用されていても正常に完了するようになりました。

